

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和元年10月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】好調な業績の一方、不調を示す企業も徐々に増加

○製造業は、鉱工業生産指数で電気機械以外の多くの主要産業で前月比低下した。ヒアリングにおいては、好調な受注を継続しているとの声も聞かれたが、米中貿易摩擦を起因とした中国経済の減速等、海外の経済動向が影響し、売上の減少や受注環境の後退等といった声が徐々に聞かれるようになっている。

【地場産業】厳しい状況が続いている

○地場産業は、鉱工業生産指数で家具や食料品が前月比で上昇したが、窯業・土石や木材・木製品等は低下した。ヒアリングにおいては、これまで同様、市場の悪化や原材料費、燃料費の高騰に対する懸念に加え、消費増税の影響も聞かれた。

【設備投資】落ち込みが長期化している

○設備投資は、工作機械受注額について、国内向けは10ヶ月連続、海外向けは11ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、老朽化への対応や省力化、省人化を目的とした投資に前向きな声も聞かれた。

【個人消費】一部に消費増税の反動が見られる

○個人消費は、小売店の9月の販売額については、家電大型専門店やドラッグストアで前年同月比大幅に増加し、全体としては2ヶ月連続で増加した。一方、小売店で消費増税による消費の冷え込みを感じているとの声も聞かれた。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った

○観光は、前年と比較し、台風の影響が限定的であり、1ヶ月を通して降雨日が少なく、天候に恵まれたため、観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った。

【資金繰り】資金繰り環境に変化はないが、外部要因による影響が懸念される

○企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関としては、消費増税の影響をはじめ、為替動向、外部環境による企業への影響等を注視している。

【雇用】人手不足の状態が慢性化しているが、一部に解消の兆しもある

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりし、依然として人手不足は慢性化した状態と言えるが、ヒアリングにおいては、受注量の落ち着きを主因として、人手不足感が薄まってきているとの声も多くなってきている。